

三功

廃プラ再生袋で日本戻す

中国の製造工場と直接

食品リサイクルや資源ごみの循環システム構築で実績を持つ三功(三重県津市・片野功之輔社長)は、廃プラを破碎・洗浄・脱水・圧縮梱包して出荷し、中国工場

で再生ごみ袋にして日本に戻す「廃プラのループ」事業を展開する。ごみ袋6トを発注して排出先の顧客にも再生

食品リサイクルや資源ごみ袋を還元していく。徹底をする。追加車両として計量付パッカー車も5台追加導入し、GPS(日野コンパス)と計量付パッカーとの連携により、正確な廃棄物の排出量を把握すると共にそれに見合った料金設定が可能になった。

の有価販売をスタートした。次に07年、中国の製品工場と提携し、廃プラの「リサイクルループ」システム化に成功した。

出される。PEは上海の製袋工場に出荷。ごみ袋を製造する原料として利用し、再生ごみ袋を製造すると共に三重県下で新たに指定袋を計画している自治体

PETフレックは浙江省の寧波市にある繊維工場へ向けて毎月約40トを輸出。綿の原料として使用される。PSも毎月約20トのペー

を計画している自治体向けに再生ごみ袋に加工し、販売していく計画だ。PPとPEの中国への輸出量は合計すると毎月約10トとなると。中国の製造工場と直接取引をする。



廃プラ破碎洗浄システム

同社の片野専務は「好況時、輸業者に高く買わせていると、逆に市況が降下すると価格が高いところから切られる。現地の製造工場との直接取引なら極端に高くないが安定を得られる」とポイントを語る。

日本国内での廃プラリサイクル事業では、RPP原料のほか、フラスコのまま圧縮・梱包し、月間数十トを燃料として国内の製紙工場に売却。RPPも自社内工場の洗浄施設で使用するRPPホィラーで燃料として利用し、余ったRPPは製紙工場に

月間100ト前後を収めている。需要家からは塩素含有量0・3%以下(重量費)「Aランク」評価を受けている。